

2019年7月5日

マーケットレポート 2019年6月号

日本

前月の振り返り

◆トピックス

経済産業省が28日に発表した2019年5月の鉱工業生産指数(季節調整済、速報値)は105.2(前月比2.3%上昇)となり、2ヶ月連続の上昇となりました。

◆株式市場

株式市場は上昇しました。月初、世界景気の減速への警戒感から下落しましたが、その後はパウエルFRB(米連邦準備理事会)議長が金融政策に柔軟な姿勢を示したことやトランプ米大統領による対メキシコ関税の発動見送りなどを好感して上昇しました。中旬から下旬にかけては、大規模デモの混乱が懸念された香港株安、金融緩和に前向きな姿勢が強まったFOMC(米連邦公開市場委員会)を背景とした米株高、イラン情勢を巡る地政学リスクの高まりや米中が暫定的な貿易戦争の停戦で合意したとの報道などを受けて一進一退の展開となりました。月間では、株式市場は上昇しました。

◆債券市場

10年国債の価格は上昇(金利は低下)しました。上旬、米国の利下げ観測の高まりなどを受けて国債が買われ、価格は上昇(金利は低下)しました。その後、中旬にかけて国債が売られる場面もありましたが、日銀の国債買入れで需給の引き締まりが意識されたことや米欧の金融緩和観測などから国債が買われ、価格は上昇(金利は低下)しました。下旬に入ると、日銀の国債買入れで買入額の減額が見送られたことにより金利は一時▲0.19%台まで低下しました。その後、弱めの結果となった日銀の国債買入れなどを受けて国債が売られましたが、月末には日銀の国債買入れで買入額が据え置きとなり、価格は上昇(金利は低下)しました。月間では、価格は上昇(金利は低下)しました。

◆今後の見通し

株式市場では、2019年5月の鉱工業生産指数(季節調整済、速報値)が市場予想を上回ったことは好材料と考えられ、国内の生産活動が活発化し日本経済の拡大へと繋がれば、株式市場は底堅い推移が期待されます。但し、米中通商協議やイラン情勢を巡る地政学リスクなど海外情勢の不透明感が高まる場面では、株式市場の下落要因となり得るため、海外情勢は注視する必要があります。債券市場では、日銀の国債買入れ方針の見直しや米長期金利の動向を受けて金利が変動することが想定されます。今後も日銀やFRB(米連邦準備理事会)の動向は注視していく必要がありますが、金利の絶対水準は低位での推移を見込みます。

【鉱工業生産指数(季節調整済、速報値)】

	2019年1月	2019年2月	2019年3月	2019年4月	2019年5月
指数	102.1	102.8	102.2	102.8	105.2
前月比	-2.5%	0.7%	-0.6%	0.6%	2.3%

(出所)経済産業省公表の資料をもとにJP投信作成

【株価の推移】



【10年国債の利回りの推移】



		6月末	5月末	月間騰落率
株式	日経平均株価(単位:円)	21,275.92	20,601.19	3.28%
	TOPIX	1,551.14	1,512.28	2.57%
債券	10年国債利回り	▲0.158	▲0.094	▲0.064

※債券の騰落率は利回りの変化幅です。

(出所)BloombergのデータをもとにJP投信作成

米国

前月の振り返り

◆トピックス

6月開催のFOMC(米連邦公開市場委員会)において、FRB(米連邦準備理事会)は市場の予想通り政策金利を据え置きましたが、景気判断を下方修正し、「(米景気の)見通しを取り巻く不確実性が高まった」との認識を示しました。また、従来の「(政策調整に)我慢強くなれる」との文言を「景気拡大を維持するために適切に行動する」に置き換え、必要に応じて利下げを実施する方針を示しました。FRBが金融緩和に前向きとの見方が強まり、株式市場は上昇しました。

◆株式市場

米国株式市場は上昇しました。月初、パウエルFRB議長が講演で、景気拡大を維持させるために適切な行動をとると発言し、利下げへの期待が広がり大幅に上昇しました。月の後半にかけては、FOMCを受け早期の米利下げ観測が強まり、株式市場に資金流入が続くとの見方などから上昇しました。月の下旬にはパウエルFRB議長が講演で米経済への下振れリスクが強まったと発言したことを受け下落しましたが、月末には米中首脳会談での貿易協議進展期待から上昇し、月を通して大幅に上昇しました。S&P500は過去最高値を更新する場面がありました。

◆債券市場

米国10年国債は価格が上昇(金利は低下)しました。月の月上旬は、株式市場の上昇を受けて国債が売られましたが、雇用統計が市場予想を下回り、米景気減速への懸念が強まると債券が買い戻されるなどし、一進一退の展開となりました。中旬から下旬にかけては、低調な物価指標が続いたことやFOMCで早期利下げの可能性が示唆されるなどし、債券が買われました。月を通して価格は上昇(金利は低下)しました。米国10年国債利回りは、約2年7カ月ぶりに2%を下回る場面がありました。

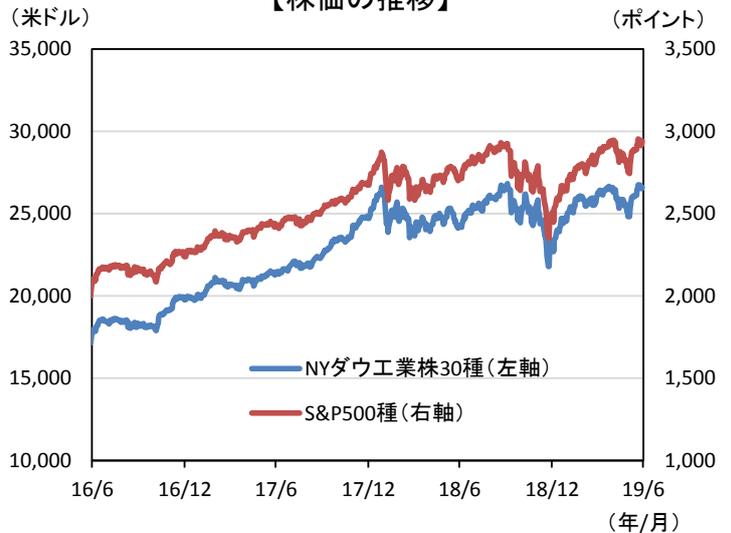
◆為替

米ドル/円は、円高・ドル安となりました。月の月上旬は、低調な雇用関連の指標などを受けて円買い・ドル売りが進みました。その後は方向感の出難い展開でしたが、月の下旬には、FOMCで早期利下げが示唆されたことを受けドルが売られました。月末には米中首脳会談への期待が高まりドルが買われましたが、月を通して円高・ドル安で終えました。

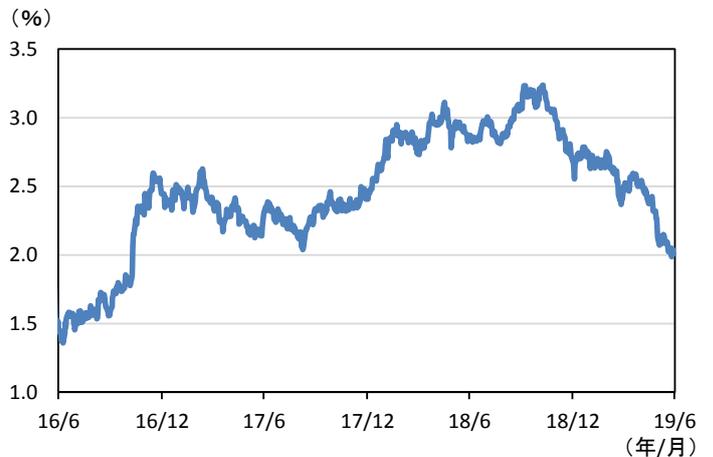
◆今後の見通し

株式市場については、6月末の米中首脳会談で追加関税の見送りが表明されましたが、貿易摩擦の不透明感が払拭されるまでは当面不安定な状態が続くものと考えられます。債券市場については、FRBが年内は利上げを見送る方針を示していることなどから、概ね横ばいの推移を見込みます。

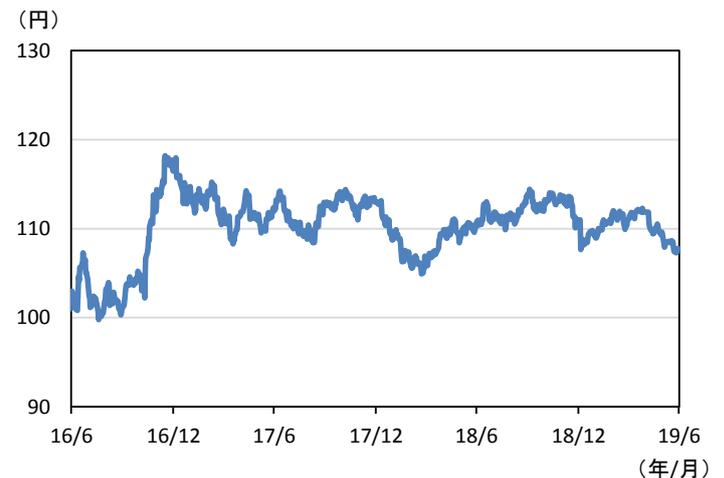
【株価の推移】



【10年国債の利回りの推移】



【為替の推移(対円)】



		6月末	5月末	月間騰落率
株式	NYダウ(単位:米ドル)	26,599.96	24,815.04	7.19%
	S&P500	2,941.76	2,752.06	6.89%
債券	10年国債利回り	2.005	2.125	▲0.120
為替	米ドル/円	107.79	109.36	▲1.44%

※債券の騰落率は利回りの変化幅です。  
(出所) BloombergのデータをもとにJP投信作成

## 欧州

### 前月の振り返り

#### ◆トピックス

6月6日、ECB(欧州中央銀行)は理事会を開催し、少なくとも2020年前半までは政策金利を現行の水準(0%)に据え置くと決定しました。世界経済を取り巻くリスクの高まりや英国のEU離脱問題を巡る先行き不透明感などから、利上げは2020年夏以降となる見込みです。また、6月20日には英国の中央銀行であるイングランド銀行が政策金利を0.75%に据え置くことを発表しています。6月20日、英国のメイ首相の後任を選ぶ、与党・保守党の党首選が行われ、ジョンソン前外相とハント外相が決選投票進出を決めました。EUからの合意なき離脱も辞さない強行離脱派のジョンソン前外相が穏健離脱派のハント外相をリードしている状況です。新党首は7月24日に就任する予定です。

#### ◆株式市場

DAX指数(独)、FTSE 100(英)は上昇しました。ECBやイングランド銀行が金融政策の現状維持を決定したことや、月中旬にはドラギECB総裁が、経済・物価の情勢が改善しない場合、マイナス金利の深堀りや追加緩和の可能性に言及したことなどから上昇しました。

#### ◆債券市場

ドイツ10年国債、英国10年国債は価格が上昇(金利は低下)しました。世界的な貿易摩擦による景気の減速懸念に加え、ECBが利上げ時期を延期するなど金融政策が現状維持されたこと、ドラギECB総裁が経済情勢次第で追加の刺激策が必要となると発言したことを受けて価格が上昇(金利は低下)しました。

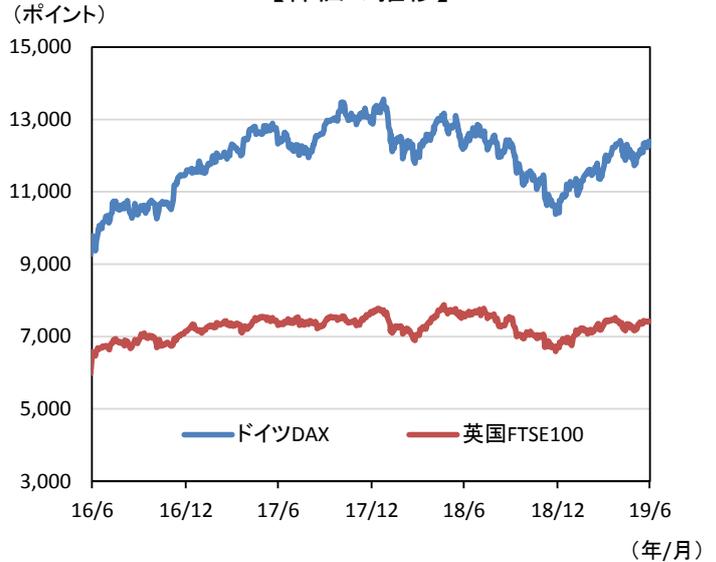
#### ◆為替

ユーロ/円は円安・ユーロ高、ポンド/円は円高・ポンド安となりました。ユーロは月初、米国の利下げ観測、ECBの金融政策の現状維持からユーロが選好され上昇しました。月後半にはドラギECB総裁が追加緩和に言及したことなどから下落したものの、月を通しては円安となりました。ポンドは与党・保守党の党首選でEUからの強硬離脱も辞さないとするジョンソン前外相が優位を保つなか、合意なき離脱の可能性が警戒され売られました。

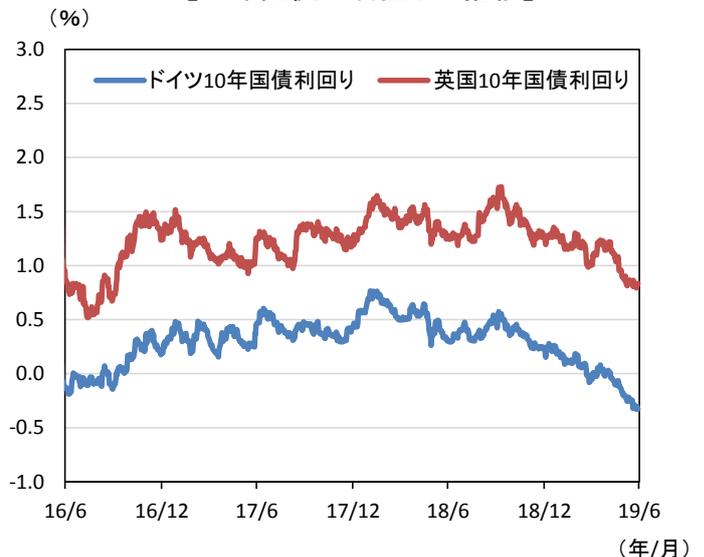
#### ◆今後の見通し

7月2日、EUは次期ECB総裁にフランスのラガルドIMF(国際通貨基金)専務理事を指名しました。正式就任は2019年秋の予定ですが、ドラギ現総裁の下で進められている緩和路線は継続されることになる見込みです。株式市場は欧州の政治リスクや景気の減速懸念、米中貿易摩擦などの影響を受けることが予想されるものの、低位で推移する失業率やECBの金融緩和と政策の継続を背景に、概ね横ばいの推移を見込みます。債券市場はECBが現状の金融政策を据え置いたことや、欧州の政治情勢に対する不透明感などから、金利の絶対水準は低位での推移を見込みます。

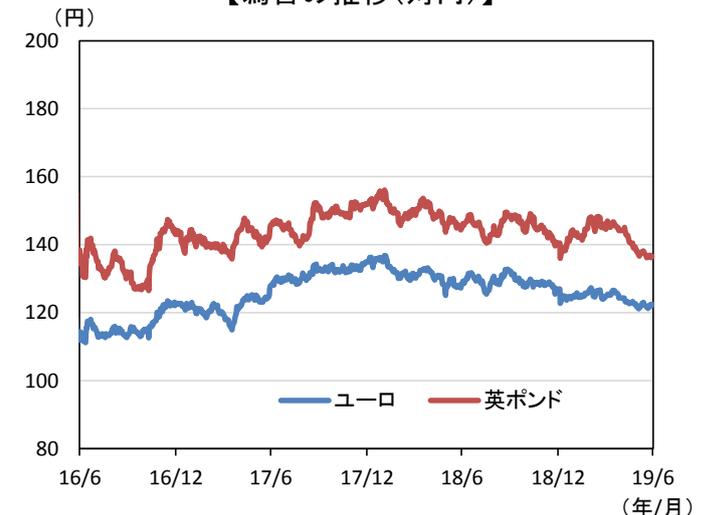
【株価の推移】



【10年国債の利回りの推移】



【為替の推移(対円)】



		6月末	5月末	月間騰落率
株式	ドイツ DAX	12,398.80	11,726.84	5.73%
	英国 FTSE100	7,425.63	7,161.71	3.69%
債券	ドイツ10年国債利回り	▲ 0.327	▲ 0.202	▲ 0.125
	英国10年国債利回り	0.833	0.886	▲ 0.053
為替	ユーロ/円	122.49	121.74	0.62%
	英ポンド/円	136.57	137.82	▲ 0.91%

※債券の騰落率は利回りの変化幅です。  
(出所)BloombergのデータをもとにJP投信作成

**【ご留意事項】**

- 当資料は、JP投信が投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申し込みの際は、最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

## JP投信

商号: JP投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2879号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会

- 当資料は、JP投信が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではなく、証券取引の勧誘を目的としたものでもありません。